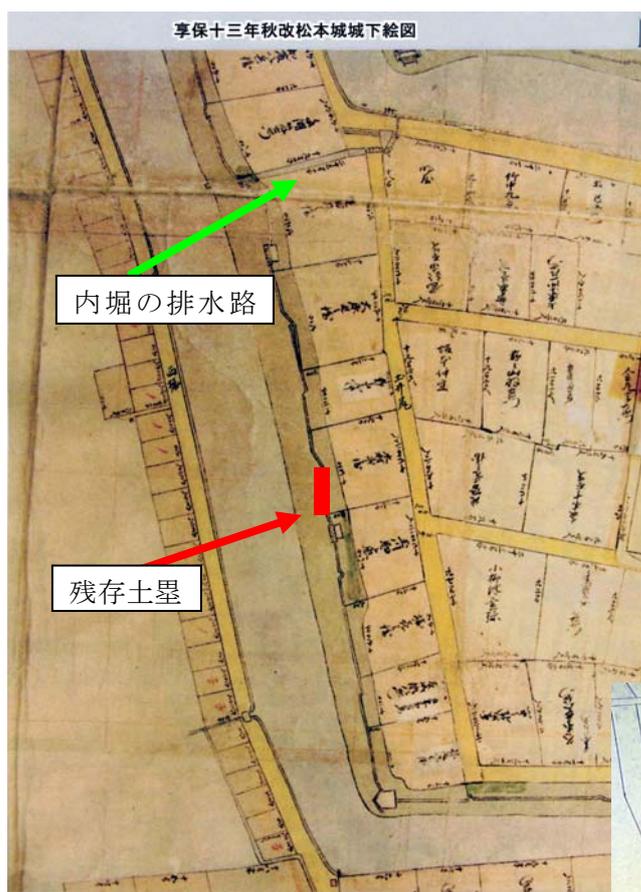


ガイド

地図で見る残存総堀土塁付近

残存西総堀土塁付近の明治以後の変容を地図上で見てみることにする。

1. 「享保十二年秋改 信州松本城下絵図」



西総堀土塁は三の丸西側を守る役目を負っていた。土居敷はおよそ17mで、土塁の東側に武家屋敷が展開していた。享保13年段階では三の丸南西から内堀排水路付近までに8軒の百石クラスの武家屋敷が並んでいる。土塁の高さは推定で地上から3.5m。その上に2.7mくらいの土塀が作られていた。土塀は真っ直ぐではない。折れ塀になっていて死角をなくす工夫がされていた。

2 明治5年「松本侍町絵図」



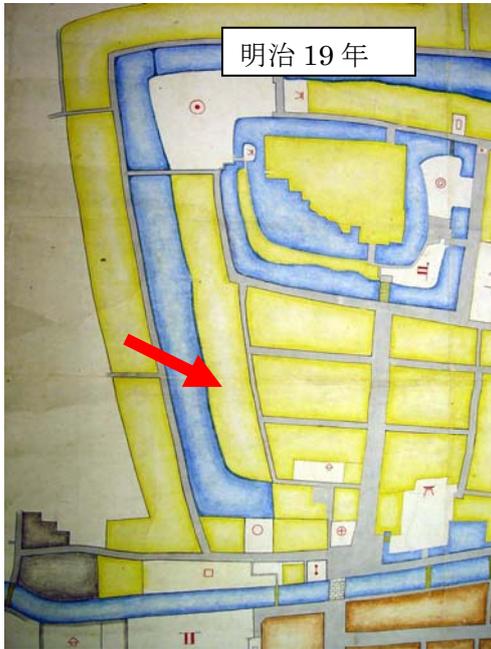
明治5年には7軒あった西総堀土塁の東側の屋敷割りは7軒である。残存土塁のある享保13年図の木村武兵衛屋敷及び玉川助之丞屋敷割りは変更がないと見られる。

土井尻の南北の道路は両側に水路が設置されていたことが分かる。

明治5年段階では西総堀土塁は旧藩時代のまま存在している。土塀については明治4年12月くらいから取り壊しが行われたとみられている。

3 明治19年以後

明治31年段階では現残存付近の土塁はそのままであるが、その北側に安立寺が明治2



7年には完成しておりこの際、寺付近の土塁は削られたと地図からは推定できる。

大正5年には西総堀は残されている。大正8～10年の間に西総堀は埋め立てられ市営住宅が建設される。この時、南中小路は西堀町の南北の通りに延長接続される。このとき付近の土塁が壊されたと思われる。そして南側に倉庫・西と東と北に住宅が建てられ、それらに囲まれていたのが幸いして残存西総堀土塁は周囲から遮断された形で築山として残されたのである。

